



いとう



海援隊旗(二曳きの旗)

<http://www.ryoma-kinenkan.jp>

# 葵 花 KIKI KOUJITU 向 日

## 龍馬の望まなかった戦争

### — 戊辰戦争 —

会期：平成二十二年七月二十八日(土)～八月九日(金)

館内を案内してよく尋ねられることがある。「龍馬が明治まで生きていたらどうなったと思いますか」というものだ。この質問に対して私は「二つのことを答えている。一つは「岩崎弥太郎のような商人になって、世界を相手に貿易をしたのではないでしようか」というもの。もう一つは「戊辰戦争が無かった可能性が高いと思います」と答えている。

龍馬は徳川家と戦争を行うのは最終手段だと考えていた。大政奉還後、まず銀座を京都へ移して貨幣の鑄造権を奪い、経済的に徳川家を衰退させることを提案していた。

そして、新政府の盟主として徳川家を迎えたとも考えていた。このような点に、龍馬が国内戦争を回避しようという知恵を絞っていたことが読み取れる。

る隊が出てきた。「洛都西行日記」には、最後まで参戦しなかった隊の隊士らが、自分らはなぜ参戦できないのか、という不満を隊長にぶつけたという資料がある。

鳥羽伏見の戦いでは統制の執れていなかった土佐藩だが、一月八日に土佐で板垣退助を総督兼大隊司令とした迅衝隊が組織された。そして新政府軍主力部隊として東山道を進軍し最大の激戦地会津攻囲戦に参加していく。

本展では、このような龍馬ら志士たちの考えていた国内戦争、土佐藩の戊辰戦争、土佐藩と激戦を行った会津藩にとつての戊辰戦争などを展示する。

展示予定の資料の中に、坂本家の領地を管理していた田中家に残る戊辰戦争関係資料がある。二本松や会津へ攻め込んだ時の記録である。長さ四mを超える文書には何月何日何時にどこへ攻め込み、渡辺三郎が敵を六人討ち取ったとか、近藤楠馬が三人の敵を討ち取ったなど、驚くほど

前土佐藩主・山内容堂は龍馬同様、徳川家と戦争をしたくないと考えていた。慶応四年(一八六八)一月三日に鳥羽伏見の戦いが始まると、容堂はこの戦いを薩長と会津の私戦と位置づけ、土佐藩兵が参戦することを禁止していた。土佐藩兵たちは、最初この命令に従っていた。しかし翌日四日に仁和寺宮が征討総督を命ぜられ、錦旗が薩長の陣頭にひるがえったことで、容堂の命令を無視して参戦す



グリップに「土佐藩」の刻印のある小島捨蔵の拳銃

詳細な記録が残っている。戦国時代ならまだしも、同じ日本人である会津藩の兵を「敵」と明記している所に強い違和感がある。「もう、つまらぬ戦は起こすまい」と誓い、早くから「日本」を意識していた龍馬は、こういう事態を避けようとしていた。

先日、迅衝隊の二番隊長小島捨蔵のご子孫からリボルバーやゲベル銃、ミニエー銃、騎兵銃など八挺の銃をお借りしてきた。新政府軍・旧幕府軍の装備の違いを示す資料として大変興味深い資料である。中でも嘉永六年(一八五三)製のリボルバーは小島捨蔵が戊辰戦争時に携帯していたもので、グリップに土佐藩と刻印されており、非常に珍しい。小島捨蔵は戊辰戦争後、戦いで亡くなった旧幕府軍の方の供養を毎年欠かさず行っていたそうである。小島捨蔵の思いは龍馬に近かったのではないだろうか。

本展のねらいは、戊辰戦争が本場に必要な戦争だったのか、改めて戊辰戦争の意義を問い直し、戦争のもたらしたものを考えてみたい。

※「銀座」江戸時代の貨幣鑄造所。現在の銀座二丁目にあった。

# 第1回現代龍馬学会スタート

浜風を熱風に変えて！

龍馬の研究と、何より龍馬思想の行動発信を掲げて「高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会」が4月18日スタートした。一年がかりの構想がやっと実った。会員は地元を中心に県外にも広がり70人を越えた。坂本龍馬記念館からの「発信」として講演、機関紙「飛騰」の増ページ、紀要の発行などを中心に活動を広げていく。

## 宣言

何もかもが混迷を深め、未来へのビジョンが失われてしまったかに見える現代。坂本龍馬の思想と行動に学び、その精神を今日に生かそうとして、高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会は発足した。

準備に約一年、県の内外から参加した会員は六十二名。尾崎正直県知事、坂本家の縁者坂本登氏のご出席のもと、発会式を行い、会員それぞれに協力・交流しながら、学会を運営し発展させていくことを申し合わせた。

引き続き、来会していただいた多数の一般参加者とともに、「夢」と「出会い」をテーマにして、七人の会員による研究発表会を開催した。いずれも新しい知見を盛り込んだ、創意に満ちた発表であり、その後の分科会での熱心な討論と合わせて、学会のスタートにふさわしい充実したものとなった。

龍馬が夢見たもの、それはヒューマニズムに根ざした新しい日本の建設だった。道義が廃れ、理想が失われつつある現代、龍馬の意志と情熱を受け継ぎ、私たちの時代と社会を見つめ直していきたい。

平成二十二年四月十九日

高知県立坂本龍馬記念館

現代龍馬学会

## 現代龍馬学会最初の宣言文

会場となった龍馬記念館横の国民宿舎「桂浜荘」には開始時間9時30分前から、参加者が姿を見せた。待つのもどかしげな様子。

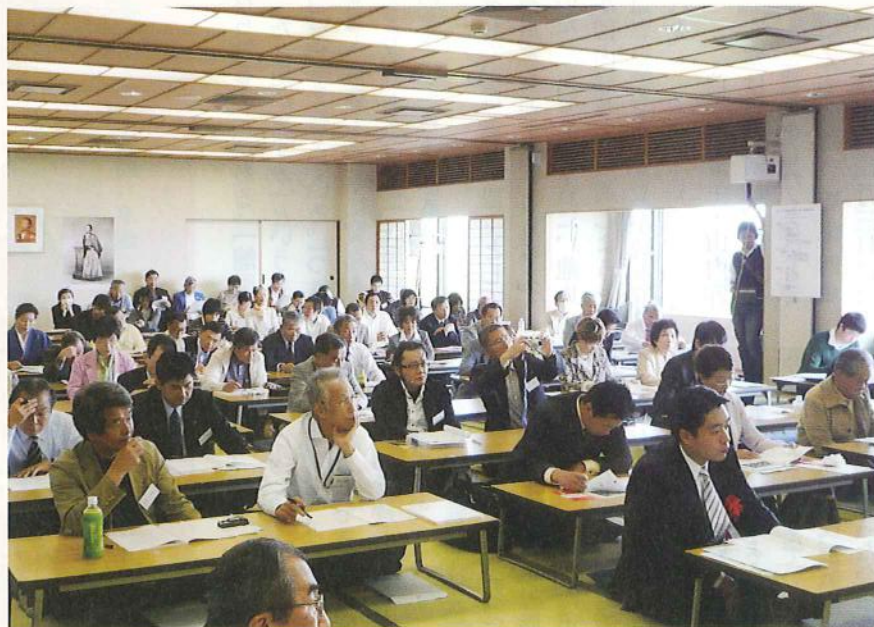
来賓で出席をお願いした、坂本家9代目の当主、坂本登さん(72)は「研究だけでなく龍馬イズムを実践していく」というこの会の発展を期待している。また、来年のNHK大河ドラマ「龍

馬伝」対応に全力の尾崎正直知事からは「私は龍馬ファンです」と前置きして「龍馬精神を桂浜から高知から日本中に発信してほしい」と祝詞を頂いた。

総会後、早速7人の研究発表、夜は懇親会での議論の続き。そして、翌日は「夢」「出会い」の二つの分科会に分かれて前日の研究発表を基に再度討論。「龍馬の思い」を語り合い、最

後に会としての宣言文をまとめ、発表した。また、宣言文作成の間の1時間あまりは、シンセサイザー奏者・作曲家の西村直記さんのミニコンサートで、「龍馬の世界」を楽しんだ。

森 健志郎



会場の桂浜荘は熱気に包まれた



来賓挨拶で熱く龍馬を語る尾崎正直知事



「龍馬精神で行動を起こそう」と語る坂本家9代目当主坂本登さん

## 分科会「夢」

### いかに子ども達に伝えるか

「夢」に関する分科討論会では、まず最初の2時間、前日研究発表された4名の方々からそれぞれ10分程度、研究発表で言い足りなかったことなどを中心に補足説明していただいた後、参加者からの質問を受けた。

内容は、北代淳二氏の「ジョン万の夢・龍馬の夢」、渋谷雅之氏の「横笛のことなどー北海道の夢ー」、渡辺瑠海氏の「夢分析に見る『幕末』」、宮川禎二氏の「書簡にみる龍馬の心」である。やはり龍馬さんの研究となると、研究者も参加者も非常に熱がはいる。予定していた10分間を軽く超えるような、より詳しいエピソードや資料説明があり、参加者からも色々な質問がだされ、白熱した討論となった。

午前11時10分より、今回のテーマである「夢」に関して、龍馬さんの「夢」(夢の本質)を現代という時代に如何に実現していくか、発表者と一緒全員で議論を行った。ジョン万次郎



坂本世津夫さん

さんのようなグローバル的感覚を持ちローカルに動く。プラス志向で夢を実現していく行動力。そして土佐の先進性(造船など)。この龍馬さんの夢を、次代を担う子ども達に如何に引き継がせるかである。「三人よれば文殊の知恵」ではないが、みんなと一緒に考える、こういうスタイルが、やはり色々なことを発見できる源になると感じた。独りで研究しても、なかなか気づかなかつたことが(あかみちや等)、色々な方の意見を聞くことによつて発見できる。分科討論会は非常に有意義なものであった。

## 分科会「出会い」

### 人生積極的に出会い求めて

私たちの「出会い」分科会では、「出会いの達人」であった龍馬から何を学び、現代にどう生かすかということテーマに進め、まず最初に前田由紀枝氏、永国淳哉氏、村上恒夫氏の三氏に、それぞれの出会いを語っていただきました。

い、それが縁で長崎、京都、北海道まで交友が広がり、二層龍馬にのめり込んでいった体験を語られ、浦戸育ちの永国氏は、銅像前にまだ人が少なかった少年期に、桂浜から太平洋を見ながら龍馬を思った日々を話されました。また村上氏は、大洲市職員時代に出会った龍馬脱藩の道を示唆する「関雄之助口供の覚書」のために、人生が激変してしまい、しかし今歴史作家として充実する毎日を語られました。



分科会後のミニコンサートで演奏する西村直記さん

この三氏の龍馬との出会い談を受け、会場からは、三氏への質問を含め、参加者それぞれの出会い話、引き続き意見交換を行い、「もつと実地に脱藩の道を行くべきではないか」「もつと他



新本勝庸さん

の志士研究者と地道な交流をすべきだ」「県外にもっと発信できないか」など、多くの意見が交わされました。最後に、これらの意見をどう現代に生かしていくかを検討し、

①子どもたちがもつと龍馬に出会える方法を模索しよう。

②それぞれの団体がいろんな違いを超えて、一致して行動が起こせるようにしていこう。

③私たちも龍馬のように怖がらずに、自分から積極的に出会いを求めていこう。ということを確認し合い、「出会い」分科会を終了いたしました。

土佐郷土屋敷ジオラマが完成

龍馬の声が聞こえる

龍馬の手紙には興味を引くものが多い。中でも私は次のくだりが気にかかっていた。  
 「あのわたくしがをりし(居りし)茶ざしきの西のをしこみ書物箱がありし、其中二いかにもこげしかがみかのひよふしかり候、小笠原流諸札の書十本斗…」  
 「あの私がをりし茶ざしき(座敷)の西の通りがある、其上二竹

が渡してゑ(絵)やら字やらなにか、とふし(唐紙二記し候ものあり)(ともに慶応元年九月九日、乙女・おやべ宛)。  
 脱藩後三年余り。遠く離れた実家の様子が目の前にあるように鮮明である。龍馬の暮らした実家(生家)とは?

あるとき龍馬生家の図面のことを知った。地租改正時の上町の土地切図(明治二六年)と登記簿(敷地・家屋敷)を基にして、居住していた人々の証言も合わせて検証したものである。生家は高知空襲で焼失しており図面への異論もあるというが、当時の郷土屋敷としては不都合ない。なんとか形にできないかと思つた。高知城や鉄道などのジオラマを制作されている森尾朋弘さん(高知市)に図面を見せたところ、「作つて



一年がかりで完成したジオラマ。制作に当って森尾さんは龍馬の手紙にある細部にまでこだわった。結局、家の「建築」は二年掛りの大仕事になった。館の2階にすえつけられた二〇分の一の見事なジオラマは存在感にあふれている。見入っていると龍馬の声が聞こえてきそうな錯覚を覚えるほどだ。しかも、ジオラマは完成と同時に寄贈していただくことになった。感謝の気持ちでいっぱいである。

「まあ、龍馬つたら…」  
 静まり返った会場に、龍馬の姉・乙女姉さんの声が流れる。乙女姉さんは龍馬からの手紙を読んでいる。読みながらの独り言だ。  
 「龍馬の手紙を読む」朗読コンサート」が11月14日(土)高知県立美術館のホールで開かれる。女優の小林綾子さんが乙女姉さんに扮して、龍馬から来た手紙を読む。風雲急を告げる幕末、龍馬は命がけ。手紙書く余裕などないと思われるのに文面はユ一モア交じりに展開していく。まさに龍馬の龍馬たらんところか。盛り上げるのは、小林さんとは息の合ったシンセサイザー奏者で作曲家の西村直記さん。案内役は館の学芸主任が務める。  
 舞台は1時間45分を予定している。また、龍馬からの手紙だけでなく、入館者の皆さんが龍馬に宛てて書いた手紙「拝啓龍馬殿」からも読む。新たな龍馬像が見えてくるはずである。  
 なお、チケット発売は8月1日から。前売り2000円(当日2500円)龍馬記念館、美術館、さんのすけプラザ他。森 健志郎



目線を低くすると、この“離れ”(手前)にあれっ?龍馬?

聞こえる・あの声 8月チケット発売開始!  
 龍馬の手紙を読む  
 ～朗読コンサート



西村直記  
 小林綾子

ホームページがリニューアル始動

新しいコンテンツも

4月30日、リニューアルされたホームページが開始しました。静かな船出となりましたが、ご覧いただけましたでしょうか?  
 TOPページにはフラッシュ動画を使い、上部にはカテゴリー分けされたメニューバーを配置。左サイドには「お知らせ」や「更新状況」で新しい情報を紹介。おすすめの内容は「バナ」からの誘導。右サイドには「今日の龍馬、明日の龍馬」その

の言葉「幕末からの伝言」が自動更新されるなど、ユニバースデザインを意識した作りとなっています。新コンテンツ「今、読まれています」は「待ちゆく龍馬」では、本文や読者からの感想文を紹介。「龍馬記念館って?」入館者インタビュー」では、来館者に職員がインタビューした記事を掲載。「記念館からの四季を撮る」では、職員撮影の記念館からの風景をご覧ください。



ボランティア協力を頂いた左から山岡、中里、神田、中野さん

ただけるなど、龍馬情報の提供だけでなく、記念館や桂浜の情報も配信する事で、「ぜひ記念館に、桂浜に行ってみたい」と思ってもらえるようなホームページになればと思っています。  
 最後にりましたが、ホームページリニューアルに、ボランティアとして多大な力を発揮していただいているメンバーの写真を紹介します。皆様からのご意見・感想もぜひお寄せ下さい。お待ちしております。

渡辺 曜子

夏休みは龍馬記念館へ行こう!

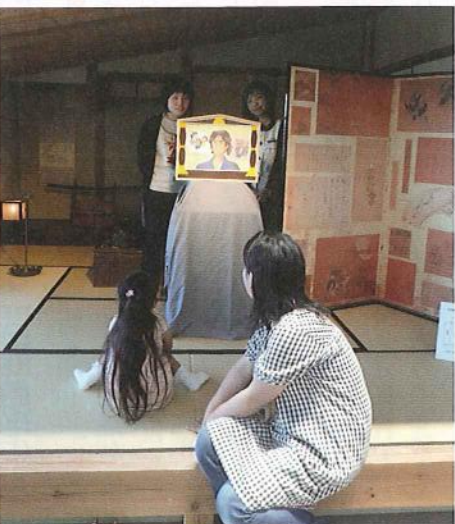
宝探し気分でお宝を学ぼう!

当館には年間15000人もの子どもたちが訪れます。しかしこれまでの展示は、龍馬の手紙などの歴史的資料が中心で、大人向けの展示となっていました。お父さんが龍馬の手紙を熱心に読むそばで、「早く帰ろう」という子どもたちの姿を見かけることもしばしば。そんな子どもたちにも展示を楽しんでもらうため、この夏、2階常設展示室が大変身します!

☆夏休み子ども教室☆

8月1日(土)  
 「今年の夏はオリジナルうちわで祭りへ行こう!」  
 紋切りうちわ作り  
 8月22日(土)  
 「風にゆられてクルクルクル。りようまどくじらのモビール作り!」  
 両日とも、9時30分～11時30分  
 定員・小中学生20名  
 (小学生は保護者同伴でお願いします)  
 電話でお申込ください。  
 (088-841-0001)

夏休みは近江屋に紙芝居屋さんが登場! 龍馬紙芝居で龍馬の心を学びましょう。また、夏休み、冬休みには「子ども教室」も開催。紋切りうちわやモビール、風作りなど、様々な内容でたくさん



たとえお客さんは少なくとも…



# 拜啓 龍馬殿

131通

3月21日～6月20日

私は東京都品川区南大井出身です。あなたが黒船に出会った場所のそばで育ちました。京浜急行立会川駅にはあなたの像があり(今はちょっと遠くに移動)、商店街にはあなたの名前をかけた「龍馬力ー」のお店もありますよ。あなたは本当の自由人ですね。私もそうでありたい。風のようにありたいです。

の政界には何人いるんでしょうね。今日はいい天気です。明日、青森に帰ります。また会いに来ます。

(3月27日 青森 T.M 女性)

おととしを訪れました。その時は、大学4年生で自分の将来のことを真剣に考え取り組んでいた時期でした。それから一年半がたった今、消防士という自分の夢をかなえることができ、毎日元気で働いています。私は人づきあいをする中で、よく龍馬のことを思い出します。自分が小さなことで人に怒った時や、あの人は付き合いたくないと思った時には、必ずといっていいほど、龍馬の温かい人柄や度量の広さを思い出します。またちよくちよく来るよ、これからもわたしを見守っていてね!

(3月22日 岡山 Y.N 33歳 女性)

はじめまして。小学校の教員をしています。歴史の授業では「坂本龍馬」についていろいろなことを子どもたちに伝えることができず。しかし、私自身もさらに深く追求してみたいという気持ちで膨れ上がり、春休みを利用して高知まで足を運びました。坂本龍馬の生き方、考え、価値観などを学ぶことができ、それを今度は私が、将来日本を変えていくであろう子どもたちに伝えていきたいと思っています。未来の坂本龍馬の誕生を願っています。

浪人をしていて、毎日「毎日自問自答の連続でした。『龍馬がゆく』を何度も読み、活力をもらい、夢を達成しました。あれから20年、出張で高知に立ち寄り、わが先生に会えました。子どもはまだ幼いですが、今度は子どもと供に参ります。

(4月21日 沖縄 Y.A 43歳 男性)

吹雪の青森から桜満開の高知へやってきました。明日なんてどうでもいいんだ、今がよければ、でも明日のために命をかけることも必要なんですね。死ぬことさえ恐くなければ、政治の世界は楽しいと考えてくれている人が、日本

(3月26日 広島 F.S 23歳 男性)

坂本龍馬さんのおかげで、苦手だった日本史に興味もてるようになりました。龍馬さんの偉業は、私にたくさんのことを教え、新しい世界と広い視野を与えてくれ

また、龍馬が江戸で人生の師匠・勝海舟と出会ったように、自分もそんな出会いがありました。それはこの仕事の「親方」。その人にあつてから考え方がものすごく変わった気がします。人と人との出会いはほんまに大事やなと痛感する次第です。龍馬を知りたいと思ったのも、日本で初めて「カンパニー」商売をやったことくらいしか知らなかったんで、「おんなやねん」と思い、「おしい龍馬」を読み「とりこ」になつてしまいました。今の時代と明治の時代は全てが違うと思うけど、人自体は志をもつていたら同じやと思いました。自分も大きい志を持って、龍馬が自分の理想をかなえていったように(人にホラ吹きつて言われながら)、内装業だけにとられずに事を成していきたいです。今日は土佐を満喫するぜよ!

(4月2日 愛媛 H.I 男性)

私は昔から龍馬が大好きです。きっかけは父が買ってくれた龍馬の本を読んだことです。私の中の龍馬は、人を笑顔にさせることにだけ、自らもとても表情豊かで、人の気持ちをよく察することができ、それでいて自分のかっこたる信念やそれを実現するための行動力、人の心をつかむ能力を兼ね備えた天才だったように思います。龍馬のように大きくほがらかな心で生きていたら幸せだなあと思っています。今度は私が子ども龍馬の本を買って読ませてあげたいです。

夫と結婚して19年になり、龍馬さんを心の師としていて、口には出しませんが、態度や行動で感じる時があります。龍馬さんのことを何も知らなかった私も夫の影響

(4月25日 大阪 T.N 44歳 男性)

時代を迎えることなく、でも喧嘩するのでもなく、人と人との和を尊び、日本の夜明けの原動力となった貴方の故郷を見たくて仙台北へ来館しました。今、桂浜から太平洋を見ると、貴方もここから海を見て世に思いを馳せたのかなと、貴方の人柄が惚ばれるように、ここにきて本当によかったと思えます。

時代を迎えることなく、でも喧嘩するのでもなく、人と人との和を尊び、日本の夜明けの原動力となった貴方の故郷を見たくて仙台北へ来館しました。今、桂浜から太平洋を見ると、貴方もここから海を見て世に思いを馳せたのかなと、貴方の人柄が惚れるように、ここにきて本当によかったと思えます。

(5月29日 宮城 S.O 33歳 女性)

坂本龍馬先生、はじめまして。坂本先生にお願いがあります。私は剣道をしているのですが、来月、段をとります。とれるように天国から見てくださいませんか?私が剣道をはじめた理由も、坂本先生にあげられたからです。坂本先生は14才からしていたんですよね?私は12才からしているけど、坂本先生のようにうまくできません。あと、今年受験もあるので天国から見守ってほしいです。

私は昔から龍馬が大好きです。きっかけは父が買ってくれた龍馬の本を読んだことです。私の中の龍馬は、人を笑顔にさせることにだけ、自らもとても表情豊かで、人の気持ちをよく察することができ、それでいて自分のかっこたる信念やそれを実現するための行動力、人の心をつかむ能力を兼ね備えた天才だったように思います。龍馬のように大きくほがらかな心で生きていたら幸せだなあと思っています。今度は私が子ども龍馬の本を買って読ませてあげたいです。

(5月23日 兵庫 Y.N 30歳 男性)

小学校の頃から龍馬が大好きで、今年生まれて初めてこの土佐にやってくるのができました。龍馬や乙女姉さんのようになりたくて、近付きたくて、中高時代は剣道をやっていました。龍馬のようにまっすぐ生きたい。これからもがんばっていききたいと思います。いつまでも龍馬は心の師匠です!この地に来られて感動しています!

私は昔から龍馬が大好きです。きっかけは父が買ってくれた龍馬の本を読んだことです。私の中の龍馬は、人を笑顔にさせることにだけ、自らもとても表情豊かで、人の気持ちをよく察することができ、それでいて自分のかっこたる信念やそれを実現するための行動力、人の心をつかむ能力を兼ね備えた天才だったように思います。龍馬のように大きくほがらかな心で生きていたら幸せだなあと思っています。今度は私が子ども龍馬の本を買って読ませてあげたいです。

(5月10日 大阪 M.N 14才 女子)

内装業という仕事をやって10年経ち、20才から始めて今30才、「独立」という目標を達成できました。内容のある濃い10年

私は小さな会社を経営している商人です。龍馬殿の見た海を今見せたいと考えています。海に向かって、今

(5月30日 香川 K.Y 27歳 女性)

まだ16歳、龍馬さんの人生の折り返し地点にいますが、将来の夢なんて考えられていません。が、龍馬さんのように、何か後世に残せたい、とにかく龍馬さんが生きてくれたこの日本のために尽くしたいと思えます。幕末という乱世とも言える時代、日本を変えるために力を尽くしてください。坂本龍馬さん、本当に生まれてきてくれてありがとうございます。

(4月3日 埼玉 M.K 16歳 女子)

浪人をしていて、毎日「毎日自問自答の連続でした。『龍馬がゆく』を何度も読み、活力をもらい、夢を達成しました。あれから20年、出張で高知に立ち寄り、わが先生に会えました。子どもはまだ幼いですが、今度は子どもと供に参ります。

(4月21日 沖縄 Y.A 43歳 男性)

息子が生まれて10年目、やっと来ることができました。息子(竜馬・小五)に、日本の未来を変えていけるような人になってほしいと願っている人になりました。今、息子は三才下の妹と共に柔道に夢中です。10年後の息子がどのように変わっているのか、又、10年後に訪れたいと思えます。10年後も家族4人揃に。

(4月25日 大阪 T.N 44歳 男性)

夫と結婚して19年になり、龍馬さんを心の師としていて、口には出しませんが、態度や行動で感じる時があります。龍馬さんのことを何も知らなかった私も夫の影響

(4月25日 大阪 T.N 44歳 男性)

時代を迎えることなく、でも喧嘩するのでもなく、人と人との和を尊び、日本の夜明けの原動力となった貴方の故郷を見たくて仙台北へ来館しました。今、桂浜から太平洋を見ると、貴方もここから海を見て世に思いを馳せたのかなと、貴方の人柄が惚れるように、ここにきて本当によかったと思えます。

(5月29日 宮城 S.O 33歳 女性)

高知に転勤して7年目になりました。子どもたちもいつの間にか土佐っ子に育ち、土佐弁を流暢に使います。私は龍馬殿と同じ船に乗り、土佐湾、紀伊水道、神戸港と海援隊となじみ深い海域を守っています。

(5月31日 高知 Y.U 36歳 男性)

## ここは館長の部屋 森 健志郎

### 大渋滞 なぜできぬ・問題解消

館二階の南端、海に突き出た、空白のステージに立つと眼下左手、海岸沿いに西から桂浜に連なる道路が白い帯状になって見える。右手には南国市方面から桂浜を繋ぐ、浦戸大橋、こちらは目線だ。いずれも車の動きが川の流れるように見えて、桂浜界隈の風光の中に溶け込んでいく。橋の下をくぐり抜ける船の汽笛が聞こえたり、少し風の強い日、「海道」がしぶく波の霧に霞むと、より効果絶大で幻想的とさえ思えてくる光景なのである。

5月連休の中日であった。天気快晴。実は恐れていた事態がずばり起きてしまった。「海道」も橋の上も動きが止まった。流れの中の車が動かない。全くのジオリマ状態。この日の渋滞は午前8時半に始まった。やがて頭の上には真夏のような太陽がかかってくる。桂浜を目の前にして待ち時間が1時間半。事態を知らせてくれる者となし。想像しただけで汗が出る。たまりかねたのだから。Uターンして引き返す車が続出した。

午後1時過ぎであった。お母さんに連れられた一人の小学生とおぼしき子供さん三人が入館された。額に汗が浮いている。言葉からすれば関西方面からお越しらしい。息も弾んでいた。聞きもしないのにお母さんがまくし立てた。「えらい目にありましたワ。車が動かしませんねん。お父さん一人車に残して下から歩いて来ましたワ。有名な観光地がこんなことではあきまへんでえ。今回は龍馬に会いたい一心で来ましたが、もう二度と……」さすがに最後は苦笑ではあったが……。

毎年繰り返される「桂浜渋滞」。シャトルバス運行、駐車場確保、関連道路の一時封鎖……いくらでも手はあるはずなのに放置されてきた。「名勝桂浜」は名ばかり。うわさは怖い。「怖い」が実感として伝わってきた連休であった。

来年は大河ドラマ「龍馬伝」それに、「高速道1000円効果」が重なる。さて、どうなる。桂浜の真価が問われる。

森 健志郎

## 新メンバー自己紹介



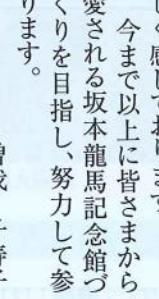
「龍馬伝」の放映など、坂本龍馬が改めて注目を浴びているこの時期に、記念館の仕事に携われることを光栄に思います。来館された方々が満足いただけるよう、少しでもお役に立てればと考えています。

副館長 大石 好一



5月の入館者だけでも2万名様を突破するなど、たくさんの方をお迎えできて嬉しく感じております。今以上に皆さまから愛される坂本龍馬記念館づくりに目指し、努力して参ります。

曾我 千寿子



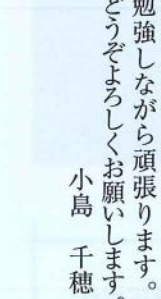
絵を描いたり、ものを作ったりすることを得意としています。この得意分野を活かしお客様に坂本龍馬の素晴らしい姿を伝えていけたらと思います。持ち前の元気ががんばります!

山中 真優



記念館に勤めて2ヶ月。龍馬の人氣ぶりに驚くばかりです。龍馬に関する、まだまだ初心者ですが、勉強しながら頑張ります。どうぞよろしく願います。

小島 千穂



館に勤めて始めて早いもので7月で1年になります。何かの縁(きつ)と龍馬さんとの信(じつ)があつて、ここに集った仲間達と笑顔で仕事できる事に感謝している毎日です。

中平 文

## ■龍馬・桂浜プロジェクト「龍馬を知ろう!」一日バスツアー大満足。龍馬を理解

桂浜界隈の7団体が組む「桂浜・龍馬プロジェクト」が、5月、6月に一回ずつ“一日バスツアー”を企画した。龍馬を知るには最も基本的な場所を回るものだ。このツアーの特徴は、なんとと言っても案内役が龍馬記念館の学芸員らその道の専門家があたりこと。“龍馬のことならなんでも”である。

館が選んだ場所は「龍馬生誕地」、「坂本家墓所」、「井口事件現場（永福寺）」、「田中良助邸」、「岡田以蔵の墓」、「和霊神社」、そして記念館と桂浜の龍馬像。

さて参加者の皆さんの感想は…。

「断片的な知識が一本につながって龍馬のことが深く分かった」

「本の知識以外の解説で納得」

「高知市の山手、街中、海岸と改めて高知の市内を確認できた」

「子どものときの遠足気分勉強です。本当に楽しかった」など、など。

参加した皆さんは小さな歴史の旅で大きな満足を得たようであった。

同プロジェクトは今後も続きます。

・「龍馬を知ろうコース」(1日) ・「龍馬をどっぴり知ろうコース」(1泊2日)。

問合せは土佐電トラベル088-882-0111

前田 由紀枝



▲龍馬ゆかりの場所を回った後、記念館で説明を受ける参加者たち

## ■17回「近江屋対談」 「長宗我部元親の魅力」

若宮八幡宮大久保千堯宮司、高知県立歴史民俗資料館野本亮学芸員が、館の三浦夏樹学芸員の司会で、今、人気の元親に迫った。会場の「近江屋」前は定員オーバーの50人が陣取った。若い女性の姿も。最近の歴史ブームをはっきり物語っている。「歴史」「歴ドル」などという言葉も生まれている。歴史に興味を持つ若い女性、歴史アイドルなんだそう。そんな空気が確かに会場に満ちた。現実にして若宮八幡宮には若者の姿が多い。大久保宮司さんの話だと「最近、神式の結婚式が復活の兆しです」。ブームはまだ火が点いたばかりかも知れない。会場でメモを取る聴講者が多いことから、それがうかがえた。(K)



▲大盛況で元親人気を見せつけた

## ■「大漁旗舞う龍宮祭」

今年の龍宮祭は4月12日にメインイベント、前夜祭では大正琴の演奏会が催された。浦島太郎と乙姫様のパレードには巫女姿やペンギン姿の子どもが新たに加わった。龍宮様は大漁旗で化粧して、沖からの海風に“衣装”をはためかせた。時間を惜しんでいつもは龍宮様に上らない観光客もこの日は足を運んだ。桂浜の沖には見計らったように地元漁船団。大漁旗を掲げてパレードである。浜からはそれに応えて“迎え旗”。海と陸とが一体となった大漁旗のイベントに観光客も足を止め、飛び入り参加で旗振る者も現れた。加えて地元浦戸のてんぷら、散らし寿司などが振舞われた。終日浜は大漁旗舞う爽やかな1日となった。

中村 昌代



▲迎え旗を振る浦島太郎と龍馬

## 入館状況

2009年6月20日現在（開館以来6,352日）

◆総入館者数 2,271,093人

◆2009年度最多入館 5月 4日 3,594人

2009年度最少入館 4月 16日 84人

2009年度1日平均入館者数 452人

◇最多入館 1993.5.3 3,700人

◇最少入館 2004.10.20(台風のため) 8人

## 編集後記

現代龍馬学会の増ページで「飛騰」は10ページだてとなった。ジワリ重圧がかかってくる。学会のページの担当は会長以下、館の外部の人たちである。原稿を振り分けて依頼し集めるのは私の役目である。まあ皆さんお忙しい。連絡が難しい。“間に合うかな”と心配していたら、締め切り3日前までに集まった。やっぱりぎりぎりは……。しかし、今回、内容には自信あり。まさに「葵花向日」。燃える夏号です。(モ)

館だより「飛騰」第70号(年4回発行) 表紙題字:書家 沢田 明子 氏

発行日 2009(平成21)年7月1日

発行 高知県立坂本龍馬記念館

〒781-0262 高知市浦戸城山830

TEL(088)841-0001 FAX(088)841-0015

http://www.ryoma-kinenkan.jp

「飛騰」に対するご意見ご感想などお寄せください

開館時間 9:00~17:00 年中無休

入館料 一般500円・高校生以下無料

身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・

戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者1名

高知県・高知市長寿手帳所持者は無料

館だより「飛騰」は、郵送料のみのご負担でお届けいたします。ご希望の方は、90円切手5枚をお送りください

# 高知県坂本龍馬記念館・現代龍馬学会

## 私のテーマ

### 「夕顔」コンピューターグラフィックで復元

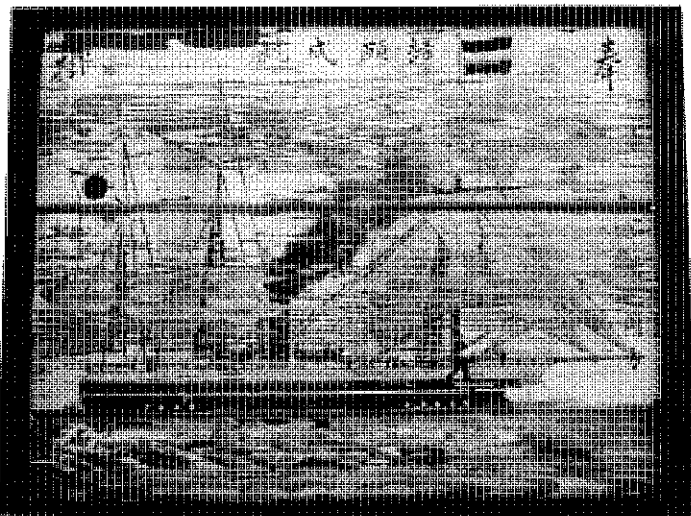
図面イギリスに求めて

小松茂久



4月のある日、電話が鳴った。「『夕顔』の資料が見つかったらしい。できれば今日龍馬記念館に行きたいのですが」永国会長の声だった。これが『夕顔』の真の姿を求める調査の始まりであった。土佐藩船『夕顔』、建造時の名前をShooney Leen(シューリーン)と言い、イギリスで建造し、中国へ輸出された船である。後に、岩崎弥太郎の九十九商会で『太平丸』として使われた船でもある。総トン数(650トン)当時の船としては比較的大型船だ。仁井田の神社で絵馬が見つかり、それから模型が作られた。しかし全貌を明らかにする正確な資料は存在していない。今回資料が見つかったのは、ロンドンにあるMaritime Museum(海事博物館)であり、その資料は、進水式を祝う当時の新聞記事と進水時のSurvey Report(検査報告書)である。

それから2週間ぐらいが経った日曜日、再び永国会長から電話が来た。「高知大学にダレンさんという教授がいます。『夕顔丸』の資料に興味を持ち、夏休みには、ロンドンへ調査に行くことを考えているようです。一度会いたいと思います」私の答えは「今から行きましょう」。



車を運転しながら私は考えた。当時の新聞記事によれば、Shooney LeenはLloyd's(ロイズ)船級協会に入級していたようである。その進水時のSurvey Report(検査報告書)が見つかったのである。

ここで、船級入級の意味を皆さんに知っていただきたい。そもそも船級入級とは船舶保険を掛けることを意味する。入級するためには堪航性(seaworthiness)の有無が評価されるということになる。平たく言えば、船は航海中に大きな波に遭遇するのであろうが、船体はその波に耐えられるであろうか?(強度:Strength)また、貨物を多く積むであろうが、荒れた海の中でその貨物は安全であるのか?(復原性:Stability)また、そのような船、航海で多くの乗客や乗組員は安全であるのか?(安全性:Safety)などである。

進水した1863年の検査だが、当時も現在も同じ考え方だと思われるので、当然、造船所から船級協会に提出された図面(審査された図面)は現在と同じだと思われた。私は興奮を覚えた。これらの

図面が残っていれば、絵馬からの復元ではなく、3次元CADによる復元も可能となり、いわゆるグラフィック化できるのである。一般配置図はもちろんのこと、強度を審査するためには中央横断面図、鋼材配置図などが必要である。復原性を審査するためには、排水量等曲線図、船体容量図、積付要領図などが必要であり、これらの元となる船体線図から船の水面下の型が特定できる。安全性を審査するためには、Fire-Control Planなどが必要であり、救命艇など、大型艙装品の配置の特定が可能となる。以上の情報量からグラフィック化ができるのである。

このことを永国会長と訪れた潮騒薫る宇佐のダレン家で話した。ダレン教授は、文部科学省の科研費などでこの歴史的価値のある『夕顔』の調査を8月20日以降行うということであった。私は、ダレン教授が調査するに当たって、見つけることができそうな資料類のリストをmailで送ることを約束した。

次の日、私は国土交通省本庁で造船関連の課長をしている大学時代の1級先輩坂下氏に電話をした。龍馬の船中八策で有名な『夕顔』という船の資料を英国のmaritime-museumで見つけた。同船の図面がLloyd'sに残っていないかを確認したい旨の相談である。即座に先輩は反応し、Lloyd'sの横浜事務所にいる人物を相談相手としてリストアップしてくれた。川井さんという人物である。また、私が電話で報告した内容を川井さんにメールしておくということだった。30分もしないうちにそのmailのCCが私のパソコンに飛び込んできた。実に要領を得たmailであった。

早速次の日、私は先輩が紹介してくれたLloyd's横浜事務所の川井さんに電話をしていた。

「国土交通省の先輩から紹介をいただきました高知の小松です。先輩からのmailにもありますように土佐藩船『夕顔』の図面がLloyd'sに残っているのではないかと探しています」

川井さんの返事は「Lloyd'sでは就航している船、また廃船され

されても5年間は造船所から提出された図面は保管しますが、1863年のものは当然無いでしょう。聞いて一瞬力が抜けた。「では、無理ですね」言葉にそれが表れていたはずだ。こちらの気持ちを察したのだろう。次の川井さんの言葉が私を蘇らせた。

「Llyod'sでは古い船の図面は保管しませんが、造船所は古い船の図面も保管している可能性があります」

「造船所は、合併などで会社が形態を変えている場合はどうでしょうか?」(私)「会社が合併などで経営形態を変えた場合でも存続会社はその技術的資料を引き継いでいるものです」(川井)「見つけた資料のコピーを送りますので、どうか調査にご協力ください」(私)

胸の高鳴りを抑えながら電話を置いた。私は希望を持って受話器を置いた。これで『夕顔』の資料は出てくると確信した。

私はイギリスの船級会社Llyod'sのメンバーである川井さんに今回見つかった資料のコピーを送った。こちらとしては、イギリスの造船会社の社歴、そして技術的資料の有無を調べてくれているものと期待している。そして、ダレン教授のイギリス訪問が実のあるものとなることを念じている。さらに、来年の大河ドラマ「龍馬伝」の中で、コンピュータグラフィック技術で復元された『夕顔』の中で船中八策を唱えている龍馬の姿を想像しながら……。

(完)

## 「ほれ話」

### 「龍馬の土佐弁」

現代龍馬学会は順調な滑り出しでスタートしました。研究発表だけでなく「夢」と出会う会をテーマに、会員や一般参加者の交流する場として大いに盛り上がりました。

当日、こんなことがありました。

京都国立博物館考古室長・宮川慎一さんが学会発表で引用された資料、慶応二年月二十日(新選の坂本春猪あて龍馬書簡の冒頭)についてです。

「春猪のとよく。此頃ハあかみちやとおしるいにてはけぬりてぬりくつぶしし略」。

宮川さんはこの中に「あかみち屋(高知城下の化粧品店か)」と表現し、的確な意味であるのかどうか不明であることを話されました。

発表後、渋谷雅之さんから、「みつちや」とは土佐弁で「瘡(ほうそう)」のことだと教えられた宮川さん。「学会」その収獲。実に面白いですね。

「土佐方言集」宮地美彦著、高知市民図書館を開くと、「みつちや」とは「痘痕面あはたつら」。顔が赤くみつちやになったのを赤みつちやという」とありました。また、「坂本龍馬とその一族」(土居晴夫著、新人物往來社)でも、「あかみちや」は瘡の跡のあはたのこととすでに紹介済み。

日ごろ宮川氏と「あかみちや」の意味を話題にして、私は「赤茶がかつた頬紅のことよ」などとうそぶいていましたが、やはり土佐弁でした。「彼が龍馬の純然たる土佐訛りの言葉」(中江兆民)に納得した次第です。

私事、坂本直寛の後妻・鹿の実家がどういった家格であったのか手がかりがなく、坂野十郎の姉ということも終了してしまいました。ところが学会初日、その坂野家の子孫がひょうこり訪ねて来られました。しつかり者の鹿さんの出自判明もさることながら、龍馬が学会に誘ってくれたような不思議な訪問でした。

前田 由紀枝

## コラム 龍馬のこと 私の人生にも影響

植田 英

現代龍馬学会の分科会で、永国会長が「昔は龍馬像には人がおらん寂しい所じゃった」と発言された。

それについて元県職員の会員が「坂本龍馬記念館が高知県に寄贈されたとき、県の教育関係者の幹部が、昔は小学校では龍馬のことは教えない方針だった。理由、龍馬は脱藩者だ」と補足した。

この二人の発言で、私が今までずーと疑問に思っていた謎が解けた。

私は団塊の世代の人間で、生まれは高知市の隣の南国市、小学校の遠足は春は桂浜、秋は五台山と決まっていた。

桂浜での遠足で先生が龍馬像を案内したり、龍馬ことについて話してくれた記憶がない。

なぜだろう、そのせいでもないが、司馬作品の『竜馬がゆく』を読んだのが大人になってからである。それでも坂本龍馬を育んだ高知県人として龍馬ファンとして胸をはっていたが、そのプライドがもろくも崩れたのが1991年に高知県が主催した「龍馬海援隊クルージング」というイベントであった。

一応社内では龍馬ファンを自負していたこの私にイベントに参加するように業務命令がくだった。

ここでたくさんの県外の龍馬ファンから龍馬に関する質問を受けたが、私は全く答えられなかった。強いカルチャーショックを受けたのである。

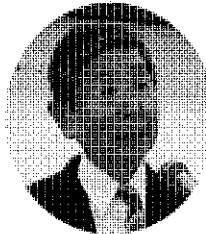
それ以来、龍馬の本を買いあさり独学で勉強したり、地元の龍馬研究会や東京や大阪の龍馬会に入部して人脈や知識を拡げた。もっと早く坂本龍馬の先見性や人間力・行動力などを学んでいれば、私の人生も変わっていたかもしれない。

だからこそ、現代龍馬学会を通じて、次世代を担う子供たちにぜひ龍馬の魅力を伝えていきたい。

## 会員便り

会長 永国 淳哉

### 課題を見つける



「各会員が、自分の“研究テーマ”を持ってほしい」。

これが会長の願いである。第一回大会で発表されたテーマで判って頂いたように、我々の学会は、従来の「歴史研究」のジャンルの範疇よりはるかに広い。

私は書誌研究として、「龍馬の歌」を発表。その後、全国の方々から頂いた情報を追加し、現在修正して論文を書いているところである。

「夢分析にみる「幕末」」を発表した渡辺瑠海さんは、6月の例会で「龍馬の資質」をテーマに取り上げた。

月例会は、最初の1時間は事前に決めた「テーマ」で、会員も一緒に話し、情報を交換し理解を深める場としている。

こうした月例会の勉強の場で、自分の新しい「テーマ」を見つける会員もいる。龍馬記念館の館内を散策しながら、その「テーマ」を深めていく方もいるだろう。

私は、龍馬像にいき、司馬遼太郎先生の「世界中であなたが立つ場所はここしかない」の言葉を反駁する。「奢りすぎた20世紀の大人たちよ。21世紀の故郷の松や海を守っているか」

## 「高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会 事務局便り」

「高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会」がいよいよスタートしました。皆様のアイデアと活動を原動力として、内容豊かな学会に発展させていきたいと思っております。お気付きの点などございましたらお気軽に事務局へご連絡ください。よろしくお願いたします。事務局:中村 昌代

高知県立坂本龍馬記念館 〒781-0262 高知市浦戸城山830  
TEL(088)841-0001 FAX(088)841-0015 <http://ryoma-kinenkan.jp>